島根半島の湖北山地東部におけるニホンジカによる角こすり剝皮害の発生実態

金森 弘樹·小沼 仁美·小宮 将大·澤田 誠吾·舟木 徹·坂越 浩一·増田 美咲

研究の要旨

2017~2018年に島根半島湖北山地の東部地域(松江市)において、ニホンジカによる角こすり剝皮害の発生 実態を調査した。43林分のうち,24林分(56%)で角こすり剝皮害の発生を認めた。被害の発生場所は,湖北 山地の出雲市境から松江市佐陀川までの地域に散在したが、枕木山山地では認めなかった。各林分の調査プロット での被害の発生率は、2~57%(平均13%)であったが、林分全体では1%以下であった。各林分での被害は、 尾根沿いの林縁部や林内の平坦部に集中して発生していた。また、被害はおよそ5~10年前から発生していたと推測 した。シカの生息数の増加に伴って、角こすり剝皮害が増加してきたと考えられた。

関連図表 :被害発生 ():被害なし

図2 湖北山地の東部地域(松江市)のヒノキ林に おける角こすり剥皮害の発生の有無



表1 角こすり剥皮害の発生状況

Ī	調査林	林 齢*	被害 (%)-	加	害 年**	被害	型**	- 被害発生場所の特徴
	No.	小 面	本数 (%)-	調査当年	調査前年まで	点・筋状傷跡	木部露出剥皮	仮告充生場所の付倒
Т	1	35	13 (13)	2	12	13	1	尾根部の平坦地
	2	40	2 (2)	0	2	2	0	
	3	30	4 (4)	2	2	5	0	尾根部
	4	30	20 (20)	4	17	19	2	尾根の林縁部
	5	30	31 (31)	4	30	28	5	尾根の広葉樹との林縁部
	6	40	9 (9)	1	8	9	0	広葉樹との林縁部
	7	20	20 (20)	3	17	17	0	ヌタ場の周辺
	8	35	35 (35)	3	32	36	0	山頂付近の広葉樹との林縁部
	9	35	25 (25)	5	20	26	0	尾根近くの林縁部に近い斜面
	10	30	17 (17)	1	17	16	2	尾根部
	11	40	57 (57)	3	55	56	2	尾根部
	12	40	11 (11)	0	11	9	2	尾根部
	13	40	9 (9)	6	3	7	2	林縁部、谷部の平坦地
	14	40	3 (3)	1	2	3	0	尾根部
	15	20	21 (21)	4	17	21	1	平坦部
	16	30	3 (3)	1	2	2	1	尾根部
	17	35	3 (3)	0	3	2	1	平坦地
	18	30	3 (3)	2	1	2	1	林縁部の平坦地
	19	15	2 (2)	2	0	1	1	林縁部
3	20	40	1 (1)	0	1	1	0	尾根部
8	21	40	9 (9)	3	6	8	1	尾根沿い
ı	22	25	8 (8)	2	6	7	1	尾根沿い
	23	30	1 (1)	0	1	1	0	
	24	35	2 (2)	2	0	1	1	尾根沿い
1	스타		200 (12)	51	265	202	2/	

* 胸高直径からの推定。** 加害か所数。

写真1 木部露出剥皮型の被害木 写真2 点・筋状型の被害木



MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER 島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

担当科

E-mail

問い合わせ先 :

鳥獸対策科

0854(76)3818

chusankan@pref.shimane.lg.jp